2014 年 11 月 6 日

各　位

会　社　名　第　一　三　共　株　式　会　社
代　表　者　代表取締役社長　中山　譲治
（コード番号　4568　東証第 1 部）
問合せ先 執行役員ｺｰﾎﾟﾚｰﾄｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ部長 石田憲昭
TEL　報道関係者の皆様　03-6225-1126
株式市場関係者の皆様　03-6225-1125

（訂正）2014 年度 第 2 四半期決算　経営説明会資料

2014 年 11 月 4 日（火）11:30 に開示した「2014 年度 第 2 四半期 経営説明会資料」の内容の一部に誤りがありましたので、下記のとおり訂正し、訂正後スライドを添付いたします。

記

【訂正箇所】

（1）20 ページ　研究開発パイプラインの進捗　CL-108　地域
　23 ページ　主要研究開発パイプライン　CL-108　カッコ内
　【訂正前】米・欧　　【訂正後】米

（2）20 ページ　研究開発パイプラインの進捗　DS-6051　地域
　23 ページ　主要研究開発パイプライン　DS-6051　カッコ内
　【訂正前】日　　【訂正後】米

（3）21 ページ　CL-108：ヒドロコドン配合剤　2 行目
　【訂正前】　　【訂正後】
　・欧米における独占的な商業化権利　　・米国における独占的な商業化権利

※当該経営説明会資料は、当社ホームページからもご参照いただけます。
URL：http://www.daiichisankyo.co.jp/ir/library/data/index.html

以　上

イノベーションに情熱を。
ひとに思いやりを。

Daiichi-Sankyo

2014年度 第2四半期決算
経営説明会

第一三共株式会社

代表取締役社長 兼 CEO　中山　譲治

2014年11月4日(火)

本日お話しする内容

Daiichi-Sankyo

- ◆2014年度　第2四半期決算
- ◆2014年度　連結業績予想の修正
- ◆主要ビジネスの状況
- ◆日本における事業運営体制の最適化
- ◆研究開発の状況

2014年度　第2四半期決算

連結業績の概要

（単位：億円）

連結業績

	2013年度 第2四半期	2014年度 第2四半期	増減
売上収益	5,168	5,254	+86
売上原価	1,741	1,761	+21
研究開発費	948	888	-60
販売費・一般管理費	1,952	1,916	-35
（資産関連費/事業再編損）	(165)	(69)	(-96)
営業利益	527	688	+161
税引前利益	439	654	+215
当期利益（親会社帰属）	335	503	+168

為替レート	USD/円	98.86	103.05
	EUR/円	130.01	138.91
	INR/円	1.74	1.72

第一三共グループ

	2013年度 第2四半期	2014年度 第2四半期	増減	修正 年度計画*
売上収益	4,291	4,296	+0.1% +5	9,200 9,000
売上原価	1,293	1,308	+15	2,800
研究開発費	901	849	-52	1,820
販売費・一般管理費	1,597	1,552	-45	3,380
（資産関連費/事業再編損）	(132)	(47)	(-85)	-
営業利益	501	587	+17.2% +86	1,200 1,000
税引前利益	502	607	+20.8% +105	1,200 1,000
当期利益（親会社帰属）	352	355	+0.8% +3	780 650

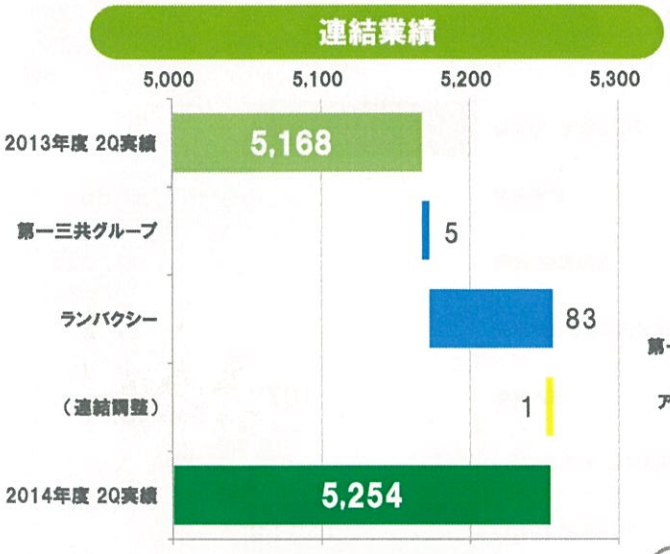
*ランバクシーグループを含まない「第一三共グループ」の数字のみで公表しております。

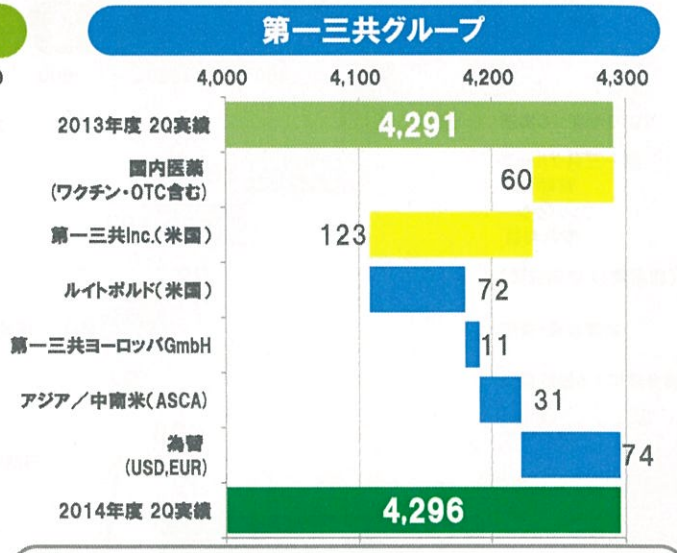
売上収益増減

（単位：億円）　増収要因　減収要因

Daiichi-Sankyo

国内医薬・第一三共Inc.が減収の一方、ルイトポルド・ASCA地域などが寄与





国内製品
増 収：ネキシウム +81　メマリー　+24　プラリア　+20　テネリア　+31
減 収：ロキソニン -53　クラビット -15　メバロチン -28　ワクチン事業 -50

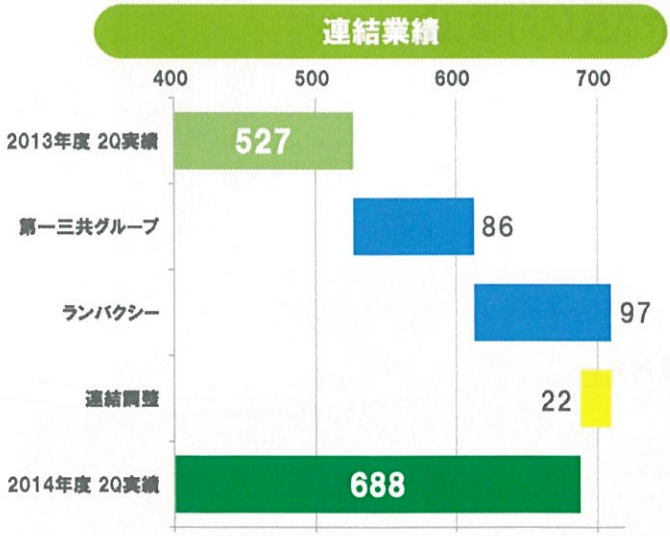
海外製品（為替差含）
第 一 三 共 Inc.：オルメサルタン -96
ル イ ト ポ ル ド　：ヴェノファー +25、インジェクタファー +27
第一三共ヨーロッパ：オルメサルタン +42

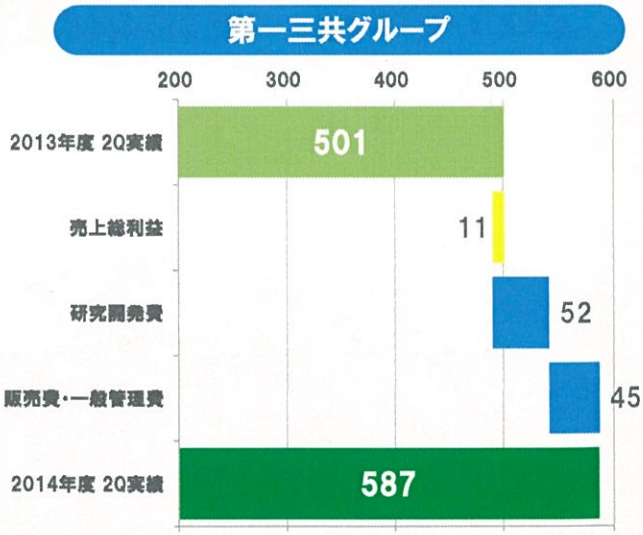
営業利益増減

（単位：億円）　増益要因　減益要因

Daiichi-Sankyo

研究開発費・販売管理費の低減により増益





研究開発費 -52　(USD、EURの為替影響 約+16)

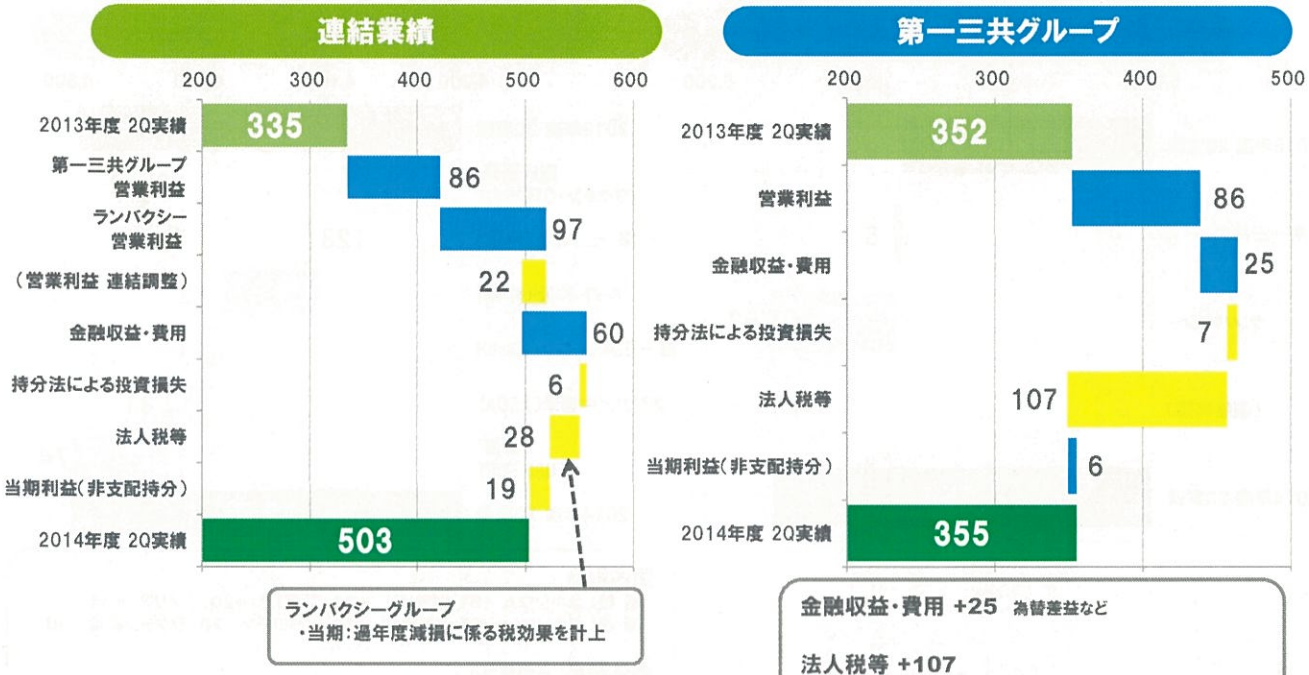
販売費・一般管理費 -45　(USD・EURの為替影響 約+35)
・前期は、有形固定資産売却益 -22、欧州における事業再編損 +108　を計上

当期利益(親会社帰属)増減（単位:億円）

増益要因　減益要因

Daiichi-Sankyo

営業増益の寄与に加え、金融収支が改善



Daiichi-Sankyo

2014年度　連結業績予想の修正

2014年度 第一三共グループ業績予想修正

単位:億円

	2014年度 予想 （7月公表）	2014年度 修正予想 （10月公表）	差異
売上収益	9,200	9,000	-200
売上原価	2,850	2,800	-50
研究開発費	1,820	1,820	0
販売費・一般管理費	3,330	3,380	+50
営業利益	1,200	1,000	-200
税引前利益	1,200	1,000	-200
当期利益 （親会社帰属）	780	650	-130

為替レート	USD/円	100	104.02
	EUR/円	140	139.46

第3・第4四半期の見込み
USD/円:105 EUR/円:140

2014年度 連結業績予想 修正ポイント

売上収益

日本における主力品の計画未達
ジェネリック医薬品の拡大による長期収載品群への影響
米国オルメサルタンの価格競合激化
等により、200億円減額の9,000億円へと修正

営業利益

売上収益減による営業利益減に加え、
日本における事業運営体制の最適化関連費用の計上を想定
さらなるコスト削減努力により、1,000億円を確保

税引前利益
当期利益

営業利益減による影響を反映し
税引前利益:200億円減額の1,000億円
当 期 利 益:130億円減額の 650億円

主要ビジネスの状況

国内主要製品　売上推移

単位：億円

		2013年度 第2四半期	2014年度 第2四半期	増減	修正 年度計画	前回公表 差異	修正計画 進捗率
オルメテック	高血圧症治療剤	376	378	+3	790		48%
ネキシウム	抗潰瘍剤（プロトンポンプ阻害剤）	240	321	+81	670		48%
ロキソニン	消炎鎮痛剤	307	254	-53	480	-40	53%
メマリー	アルツハイマー型認知症治療剤	144	168	+24	390	-110	43%
クラビット	合成抗菌剤	157	142	-15	270	-20	53%
レザルタス	高血圧症治療剤	90	90	+0	180	-40	50%
アーチスト	高血圧症治療剤	111	94	-16	180	-30	52%
メバロチン	高コレステロール血症治療剤	111	83	-28	160	-10	52%
オムニパーク	造影剤	100	86	-14	170	+20	51%
プラリア	骨粗鬆症治療剤	9	30	+20	70	-50	43%
ランマーク	癌骨転移治療剤	34	47	+12	100		47%

国内主要製品における取り組み

- 家庭血圧データの活用
- 「優れた降圧効果」と「持続性」の訴求
- ARBシェアNo.1の維持

- 発売3年を経過し、アストラゼネカ社との強固な連携による圧倒的市場シェアの獲得
- 他剤からの切替の推進（低用量アスピリン併用等）

国内主要製品における取り組み

- ドネペジル併用による進行抑制効果の訴求
- 口腔内崩壊錠（OD錠）の確実な浸透
- メマリーが有効な症状の明確化による新規処方獲得と継続的疾患啓発

- 強力な「骨密度増加効果」「骨折リスク低下効果」の訴求
- 6ヶ月1回投与の「簡便性」の訴求
- 発売後1年の市販後データによる適正使用徹底

- 「早さ」「安定」訴求による競合他剤との差異化
- PCI実施施設への早期浸透、長期処方解禁後の急速拡大を見据えた開業医展開

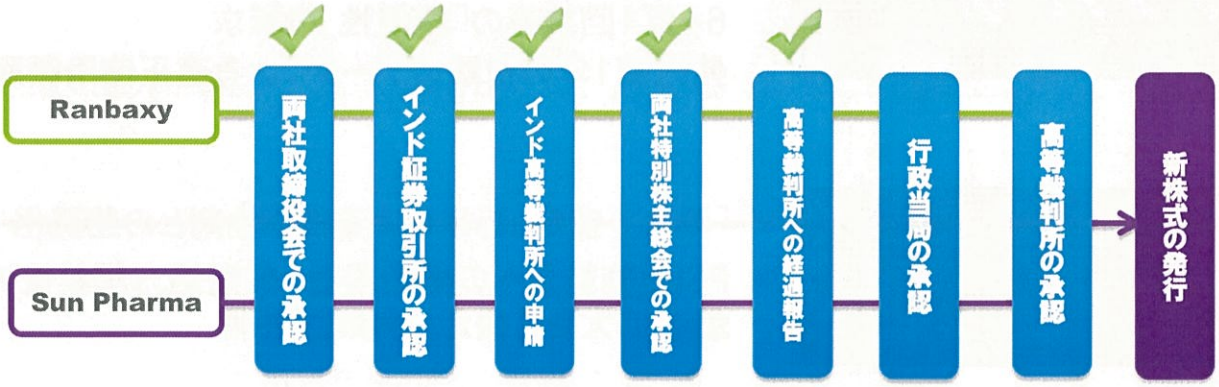
主要ビジネスユニット　売上推移

単位：億円

	2013年度 第2四半期	2014年度 第2四半期	増減	修正 年度計画	前回公表 差異	修正計画 進捗率
日本カンパニー＋ワクチン事業	2,276	2,226	−49	4,800	−280	46%
第一三共ヘルスケア	230	227	−3	480		47%
第一三共 Inc.	865	781	−84	1,610	−30	49%
オルメサルタン	568	472	−96	980	-70	48%
ウェルコール	210	218	+8	440	+30	50%
エフィエント（共同販促収入）	76	85	+8	-		-
ルイトポルド	183	268	+85	530	+30	51%
ヴェノファー	117	142	+25	260	+70	55%
インジェクタファー	2	29	+27	70	-30	42%
第一三共ヨーロッパGmbH	404	445	+41	840	+30	53%
オルメサルタン	312	354	+42	660	+30	54%
エフィエント（共同販促収入）	23	23	+1	-		-
アジア/中南米（ASCA）	269	300	+31	640	+50	47%
ランバクシーグループ	884	964	+80	-		-

サン・ファーマによるランバクシーの吸収合併

- ◆ 2014年4月6日　サン・ファーマによるランバクシーの吸収合併契約の締結
- ◆ ～2014年9月　両社の株主総会にて承認
  - 現在、合併に向けた関係当局の最終審査が進捗中
  - 第一三共は株式交換によりサン・ファーマの株式を約9％保有



日本における事業運営体制の最適化

日本における事業運営体制の最適化

◆ 背景
- 業界水準よりも高い販管費比率の改善
- オルメサルタンの特許期間満了*への対応

↓

日本における事業運営体制の最適化

◆ 狙い
- 持続的成長のための投資を可能にする経営基盤強化
- 自立的な事業運営の強化
- 低コスト体質への転換（簡素化・効率化）

* 特許期間満了予定
米国：2016年10月　欧日：2017年2月

日本における事業運営体制の最適化

Daiichi-Sankyo

◆ 各ユニットにおける運営体制の改革
- 国内事業の自立的な運営
- 間接業務の削減と機能の集約による効率化
- 組織体制の簡素化による意思決定の迅速化

◆ サプライチェーンの再編
- 「原薬（第一三共ケミカルファーマ）」「製剤・物流（第一三共プロファーマ）」2社体制の確立
- 秋田工場をアルフレッサファーマ株式会社に譲渡

◆ 人事施策
- 国内グループ全社員の配置を見直し、要員適正化を実施
- 組織・機能の再編などに伴ない、グループ内外への出向・転籍を実施

Daiichi-Sankyo

研究開発の状況

研究開発パイプラインの進捗

2014年度 第1四半期決算発表からの主な変更点

一般名 開発コード	対象疾患・適応症	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認
エドキサバン	非弁膜症性心房細動患者における脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制 (AF)	日				●	●
	静脈血栓塞栓症の治療及び再発抑制 (VTE)	日				●	●
Mirogabalin DS-5565	線維筋痛症（Fibromyalgia）	米・欧		●	●		
	糖尿病性末梢神経障害性疼痛 帯状疱疹後神経痛	日・亜		●	● 2014年度中に開始		
CHS-0214 （エタネルセプト バイオ後続品）	関節リウマチ	日		●	★		
CL-108	急性疼痛	米			導入 ★		
*Quizartinib** *AC220*	*急性骨髄性白血病*	*米・欧*			*買収* ★		
DS-6051 （NTRK/ROS1阻害剤）	癌	米	● ★				

* Ambit社株式の公開買付け（2014年10月10日開始）完了後

● :ステージアップ
★ :新規パイプライン

CL-108: ヒドロコドン配合剤

- Charleston Laboratories Inc.* からの導入品
- 米国における独占的な商業化権利
- ヒドロコドン**・アセトアミノフェン・プロメタジン（即放）配合剤
  - 中等度から重度の急性期疼痛管理に使用
  - オピオイド誘発性悪心・嘔吐の軽減
  - オピオイド鎮痛剤におけるアンメットメディカルニーズの充足
- 申請予定：2015年度、上市予定：2016年度

* Charleston Laboratories, Inc.: フロリダ州ジュピターの非上場会社。悪心や嘔吐がない、あるいは低減された、新しい鎮痛剤の研究開発に集中・特化

** ヒドロコドン: 米国で年間1億3000万件以上処方されている疼痛鎮痛剤。約30%の頻度でオピオイド誘発性の悪心、15%で嘔吐が観察される。

AC220 / Quizartinib

- Ambit Bioscience社を株式公開買付けにより獲得
- 作用機序：FLT3（Fms-Like Tyrosine Kinase 3）-ITD＊阻害剤
  （＊ITD：遺伝子内縦列重複変異）
- 対象疾患：FLT3-ITD変異を有する急性骨髄性白血病（AML）
  - AML患者の30%にFLT3-ITD変異が観察され、本変異を有する患者の予後は不良である。
    → 重症度高い、治療満足度の低い疾患の治療薬
  - FDAからファストトラック指定
  - 低用量でのPhase2試験の良好な結果を踏まえたPhase3試験（2ndライン）実施中
  - 欧米承認取得予定：2018年（2ndライン）、2020年（1stライン）

主要研究開発パイプライン

（2014年10月現在）

領域	フェーズ１	フェーズ２	フェーズ３	承認申請
循環代謝	■ DS-1040（急性期虚血性脳血管障害/TAFIa阻害剤）	■ CS-3150 (日)（高血圧症・糖尿病性腎症/MR拮抗薬） ■ DS-8500 (日)（糖尿病/GPR119作動薬）	■ プラスグレル (日)（CS-747/虚血性脳血管障害/抗血小板剤） ■ プラスグレル (米)（CS-747/鎌状赤血球/抗血小板剤）	■ エドキサバン (米欧他)（DU-176b/AF/経口FXa阻害剤） ■ エドキサバン (米欧他)（DU-176b/VTE/経口FXa阻害剤）
癌	■ U3-1565 (米日)（抗HB-EGF抗体） ■ DS-7423 (米日)（PI3K/mTOR阻害剤） ■ DS-3078 (米欧)（mTOR阻害剤） ■ DS-3032 (米)（MDM2阻害剤） ■ PLX7486 (米)（Fms/Trk阻害剤） ■ DS-8895 (日)（抗EPHA2抗体） ■ DS-8273 (米)（抗DR5抗体） ■ PLX8394 (米)（BRAF阻害剤） ■ **DS-6051 (米)**（NTRK/ROS1阻害剤）	■ Patritumab (米欧)（U3-1287/抗HER3抗体） ■ Vemurafenib (米欧)（PLX4032/BRAF阻害剤） ■ PLX3397 (米)（Fms/Kit/Flt3-ITD阻害剤）	■ Tivantinib (米欧)（ARQ 197/肝細胞癌/Met阻害剤） ■ デノスマブ (日)（AMG 162/乳癌補助療法/抗RANKL抗体） ■ ニモツズマブ (日)（DE-766/胃癌/抗EGFR抗体） ■ Vemurafenib (米)*（PLX4032/メラノーマ術後補助療法/BRAF阻害剤）	
その他	■ PLX5622（関節リウマチ/FMSキナーゼ阻害剤） ■ DS-1093（腎性貧血/HIF-PH阻害剤） ■ DS-3081（慢性便秘/GPR38アゴニスト） ■ DS-1971（慢性疼痛）	■ Mirogabalin (日)（DS-5565/慢性疼痛/α2δリガンド） ■ SUN13837 (米欧)（腎虚血障害/bFGF様細胞分化誘導体） ■ ラニナミビル (米欧)（CS-8958/抗インフルエンザ/ピオタと導出活動中） ■ Ioforminol (日)（GE-145/X線造影剤/血管撮影）	■ **Mirogabalin (米欧)**（DS-5565/線維筋痛症/α2δリガンド） ■ レボフロキサシン (日)（DR-3355/感染症/ニューキノロン系抗菌剤） ■ デノスマブ (日)（AMG 162/関節リウマチ/抗RANKL抗体） ■ ヒドロモルフォン (日)（DS-7113/癌性疼痛/μオピオイド受容体作動薬） ■ **CHS-0214 (日)**（エタネルセプトバイオ後続/関節リウマチ/TNFα阻害剤） ■ **CL-108 (米)**（急性疼痛/μオピオイド受容体作動薬）	

下線：2014年第1四半期決算発表時（2014年7月末）以降のステージアップ品を示す
*：　導出先のRocheの記載にあわせ、今回から記載

本資料に関するお問い合わせ先

第一三共株式会社
コーポレートコミュニケーション部

TEL: 03-6225-1126（報道関係者の皆様）
03-6225-1125（株式市場関係者の皆様）

当社が開示する業績予想、将来予測に関する情報、また研究開発に関する情報等につきましては、将来を見込んだ見解として、開示時点で入手可能な情報に基いた当社の想定を示しております。従いまして、開示した情報は、一定のリスクや不確実性を含んでいること、実際の業績は、当社の見解と異なる可能性があることを、ご留意願います。